



自民党は、特命委員会を設置して生殖医療についての法整備を検討するという記事がありました。海外で卵子提供を受け出産した野田聖子さんらが作製した私案が今回議論のたたき台になるようです。不妊の夫婦を対象に

- ① 提供された精子による人工授精や体外受精
- ② 提供された卵子による体外受精
- ③ 共に提供された精子と卵子を体外で受精させた胚の移植

などを法律で認めるとの私案です。夫婦の精子と卵子による受精胚を別の女性に移植する代理出産については妻に子宮がないなど医学的に出産が不可能で裁判所の許可を得た場合に限り認め、高齢を理由にした代理出産は認めないようです。生殖医療による親子関係の民法に関する規定も検討されるとのこと、いろいろな意味で期待が高まります。

《2013年5月～8月のARTの成績を報告します》

採卵件数・・・140例【～29歳10例、30～34歳20例、35～39歳38例、40歳～72例】

受精方法別 {
体外受精・・・111例
顕微授精・・・25例

融解件数・・・103例【～29歳7例、30～34歳23例、35～39歳40例、40歳～33例】

移植件数・・・130例【～29歳12例、30～34歳30例、35～39歳46例、40歳～42例】

妊娠数・妊娠率（移植あたりの胎嚢陽性率）・・・50例(38.4%)

【～29歳5例(41.7%)、30～34歳19例(63.3%)、
35～39歳16例(34.8%)、40歳～10例(23.8%)】

培養や環境や卵の質が低下して、夏はARTにふさわしくないとはいわれていますが、成績はいつもと同じでした。卵の質はどうしたらよくなるのでしょうかとよく聞かれますが、難しい問題です。いろいろなサプリメントもありますが、いま1つというところでしょうか。よく食べよく動きよくよしない前向きな姿勢でしょうか。5回くらい胚移植しても内膜が薄くて着床しなかった40代前半の女性が久しぶりに来院しました。子宮腺筋症になり、生理痛や月経量が急に増え2年ぶりくらいに凍結胚を胚移植したら妊娠したという例もあります。特に40才前後の女性は何かの契機でホルモンのバランスが著しく変化する時があります。その微妙なタイミングが妊娠できるタイミングです。見落とさずにチェックしていきたいと思えます。